

中国の経済成長と産業政策の展開

報告者：陳麗華

中京女子大学 人文学部アジア学科

20世紀90年代に入って以来、世界経済のボーダーレス化と自由化が急速に進んでおり、それにより、世界経済の分布と各国の産業発展の環境に大きな変化をもたらした。1978年から始めた経済改革は2000年まで20年間以上を亘って、中国が自給自足な中央計画経済体制から対外的に開放になる市場経済体制への転換に道に乗った。2001年に世界貿易機関(WTO)に加盟し、中国の経済と産業は本格的に国際的な経済競争に参入になっている。2005年、中国の国内総生産は2.3兆ドルを達成し、イギリスを越えて世界の第4に経済体になった。「世界の工場」と言われた重要な製造業の中心から「世界の市場」に転換している。経済のグローバル化と地域経済の一体化が更に進むに伴い、世界とアジア経済に対する中国の影響力と寄与度も増大していると考えられる。2006年始め頃、中国国務院が「国家中長期科学と技術発展企画綱要」を公布し、将来に中国は「科学技術の创新型国に」という戦略的な国策を宣言した。この内外的な経済環境の変化は今後の中国の産業政策にも重大な影響を与えられ、従来の一国と中心になった「伝統な産業政策」はグローバル化における内外的に「協調産業政策」へ転換しなければならぬと大きな挑戦となると考えられる。

本研究報告は基本的に文献調査と公的に出版したデータにより、グローバル化の中に中国の経済発展の歩みと産業政策の展開を回顧すると共に、中国の産業政策体制の特徴とそれによって資源の分配効率への影響を解明し、今後の産業政策の課題を探ることを試みした。

本報告は基本的に次の4つの角度から報告を行うつもりである：

- その一、中国の産業政策の内容と展開 産業政策の定義は学者によって異なってくる。国内外の学者の解説により、中国の産業政策の内容を明確する上、データ分析により、その歴史的な展開と経済高成長の繋がりを解説する。
- その二、中国の産業政策の特徴 産業政策は国内外の経済・社会・政治の環境の変化により変わってくる。この部分において、中国の各時代の産業政策の特徴が経済成長の流れの中に、どう言うに変化は見えると検討することを試みする。
- その三、産業政策により資源の配分への影響 この部分では、産業政策が資源動向・産業構造の変化・資源の配置を中心して分析を行う、その上、中国の産業政策は産業の比較優勢の創造への有効性を検討する。
- その四、中国の産業政策今後の課題 中国政府2006年からの第十一次五ヶ年計画の「綱要案」により、今後投資主導から消費主導の成長へと経済構造への転換を打ち出し、農村部に重点的に財政投入する方針を示した。これの影響で、産業政策は度言う変化は起きるか、どう言う課題を挑戦になるかについて検討する。